授業科目名・形態	日常生活支援技術演習X　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	佐々木　由布子	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

人生の最終段階における介護の意義と目的を理解し、基本的な介護の知識・技術・態度を習得する。「死の受容」「生きる意味」「苦悩」「関係性」「日常の生活支援の延長」という概念を理解する。そして、学んだ概念と「看取り」ケア、家族へのグリーフケアがどのように繋がっているのかを学んでいく。

【到達目標】

1） 人生の最終段階における介護の意義・目的を説明できる。
2）人生の最終段階にある人のアセスメント方法を理解し、説明できる。
3）人生の最終段階にある人を支える制度・方法・多職種連携の内容、意味、意義を説明できる。
4）悲嘆のプロセスとグリーフケアの関係・意味を説明できる。
5）「看取り」ケアとグリーフケアの関係を説明できる。

【授業計画・内容】

第　1回　終末期における介護の意義、目的、「看取り」ケアの考え方、現代の高齢者の多様性について学ぶ
第　2回　終末期における高齢者の人工栄養の種類と選択（個人ワーク・グループワーク）
第　3回　終末期における高齢者の人工栄養の種類と選択（事例検討）
第　4回　告知とインフォームドコンセント、事前指定書(個人ワーク・グループワーク)
第　5回　人生の最終段階における意思決定支援について（事例検討）
第　6回　人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(個人ワーク・グループワーク)
第　7回　人生の最終段階における医療・ケア決定のプロセスに関するガイドライン(発表)
第　8回　人生の最終段階における人の心身の苦痛と諸症状の理解とケア(技術、かかわり方について学ぶ)。
第　9回　「看取り」の法的な問題、延命治療、延命介護について考える（個人ワーク・グループワーク）
第１０回　「死」について考える(レポート作成のための視覚教材視聴)
第１１回　「死」について考える(レポート作成)
第１２回　人生の最終段階における家族ケア、家族を含む「看取り」ケアにおけるケアプラン作成について（事例検討）
第１３回　グリーフケア、予期悲嘆の関係、「看取り」ケアと悲嘆の関係を学ぶ。
第１４回　臨死期のケアの方法（看取り、エンゼルケア）
第１５回　「看取り」ケアにおけるACPの役割、チームケアについて(ツール・専門職の役割について学ぶ)。

【授業実施方法】

講義と演習・発表を組み合わせた講義展開とする。事前学習、視覚教材を活用し、段階的に学習を行っていく。

【授業準備】

「死」「看取り」「グリーフケア」「死生観」「ライフサイクル」に関する文献を読んでおくこと。

【主な関連する科目】

介護の基本、社会福祉概論、高齢者福祉論、障害者福祉論、ソーシャルワーク演習、介護実習、ソーシャルワーク実習、ゼミナールⅠ・Ⅱ.

【教科書等】

新・介護福祉士養成講座７　生活支援技術Ⅱ、中央法規.

【参考文献】

清水哲郎、会田薫子編　「医療・介護のための死生学入門」　東京大学出版会（2017/8/28）
高口光子著　「生活支援の場のターミナルケア 介護施設で死ぬということ」　講談社（2016/11/11）

【成績評価方法】

演習等への取り組み(20%)、レポート(30%)、筆記試験(50%)

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

高齢者福祉施設の介護職員として数十人の利用者を看取ってきた。介護現場での経験を活かし、利用者の尊厳、家族の意向を重視した講義になるようにしたい。

【学生へのメッセージ】

「死」「看取る」「生きる意味」の意味を問うことで、死へのかかわり方を学んでいく。また、視覚教材、個人ワーク、グループワークを通じて、自分の分からないこと、難しいことを明らかにしていくこと。最終的には、知識・経験・実習と結びつけながら、「ことば」の根源的な意味を再認識していくこと。